



西部教育事務所 管理主監 池田 卓巳

## 子供たちが生き生きと学ぶ、明るい学校づくりを目指して

今年度も残すところひと月あまりとなりました。5月に新型コロナウイルスの感染症対策が緩和され、コロナ禍前に戻った教育活動も数多くあるとお聞きしています。一方で、業務改善の流れや、数年ぶりのインフルエンザの流行等もあり、教育活動をどこまで戻すか、戻すにしてもどのように行うかなどについて、思案することは多かったと思います。なかなか状況が安定しない中、各学校で教育活動の充実に努めていただいた教職員のみなさまには、心より感謝申し上げます。

少し堅い話になりますが、今年3月に、今後5年間の教育施策の理念と方向性を示す「第4期群馬県教育振興基本計画」が策定されます。その中に「ウェルビーイング」を育むことの重要性が出てきます。「ウェルビーイング」には「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」等、いくつかの意味が含まれます。学校では、授業の時間が占める割合が高いので、そこを充実させることが子供たちのウェルビーイングを育むために効果的といえるでしょう。

今年度から3年計画で県は「各教科等授業改善プロジェクト」を実施しています。今年度西部管内では、高崎市で家庭科、富岡市で外国語、藤岡市で総合的な学習の時間の授業を、小中学校で公開していただきました。いくつかの授業を参観させていただきましたが、どの授業も、子供たちが生き生きと課題解決に取り組み、学ぶことを楽しんでいる姿が見られました。なぜそのような姿が見られたのか考えてみました。



1つめは、子供たちに課題意識があったことです。課題に対する自分の考えをもち（その時点で子供たちは考えを言いたくて仕方がない様子です）、タブレット端末を用いて考えを共有し、先生のコーディネートで多様な考えに気付かせ、考えを深められるようにしていました。課題把握の段階で、「なぜかな」「どうすれば問題が解けるのかな」という意識を十分に掘り起こせていたことが、要因だったように思います。タブレット端末等のICT機器の効果的な活用が課題となっていますが、元をたどると、この課題意識こそが大切なのではないのでしょうか。

2つめは、先生が子供たちをほめていたことです。おそらく授業を公開するにあたって、たくさん教材研究をされたのでしょう。ほめるべき絶妙なタイミング、内容で声をかけていました。先生の中で評価規準をしっかりとっていたので、自信をもって子供たちをほめることができたのだと思います。学習の中で見せていた子供たちのうれしそうな表情に、確実にウェルビーイングが育まれていることがうかがえました。そして、子供たちの学ぶ姿を通して、先生方の成長や喜びが伝わってきたこともうれしいことでした。それは、先生方にとってのウェルビーイングですね。

そのほかにも、これからの教育に重要とされる「エージェンシー」「キーコンピテンシー」「非認知能力の育成」等がありますが、基本となるのは、上記のような子供たちや先生方の姿であると思います。子供たちが生き生きと学ぶ、明るい学校づくりを目指して、今年度のまとめ、そして来年度の準備に取り組んでください。

※各事業の研究内容等は、下記リンクよりHPにて御覧ください。

- 各教科等授業改善プロジェクト **【家庭科】** 高崎市立堤ヶ岡小学校 群馬南中学校  
**【総合的な学習の時間】** 藤岡市立美土里小学校 西中学校  
**【外国語】** 富岡市立高瀬小学校 南中学校
- 食育推進に関する実践協力調理場** (高崎吉井地区 藤岡市 富岡市)



# 共生社会の実現に向けた生涯学習・社会教育の推進

令和5年6月16日に閣議決定された「教育振興基本計画」の基本的な方針の中に、「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」が示されています。

また次期群馬県教育ビジョン(第4期群馬県教育振興基本計画)案では、メインテーマを「自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて」としています。

西部教育事務所では、両計画ともに掲げられている「共生社会の実現」に向けた取組を推進しています。



教育振興基本計画



群馬県教育ビジョン原案概要

## R4 群馬県民カレッジ大学等出前講座「ボッチャ体験講座」(上野村、神流町、南牧村で開催)



「ボッチャ体験講座」

講師:高崎ボッチャクラブ 宮前剛氏・高橋俊一郎氏

高崎ボッチャクラブの宮前氏、高橋氏を講師にお迎えし、東京パラリンピックで注目を集めたボッチャの体験講座を開催しました。年齢や障害の有無などに関係なく、誰でも楽しむことのできるパラスポーツの魅力を体験することで、競技の楽しさを味わい、交流することの楽しさや大切さ、その素晴らしさを実感することができました。どの会場も大いに盛り上がり、参加者のみなさんの笑顔が満ちあふれる講座となりました。

## R5 西部地区人権教育指導者研修会



講演:「もっと生きやすい社会にするために」

講師:日本パラ陸上競技連盟 常務理事 花岡伸和 氏

アテネ、ロンドンと2度のパラリンピックで車いすマラソン競技に出場した経験のある花岡伸和氏を講師にお迎えし、「もっと生きやすい社会にするために」というテーマでご講演いただきました。パラスポーツが生まれた経緯やご自身の競技経験に基づく感想、そして共生社会の実現に関する様々な話題に触れていただきました。参加者からは、「障害は不便だけど不幸ではない」という言葉、その通りだと思います。」「無意識の偏見や思い込み(アンコンシャスバイアス)をしないように、日常生活から意識していきたい」等の感想が寄せられました。

## R5 社会教育行政職員等研修講座



講師:国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 榎田伸一 氏

障害者の生涯学習を中心に、誰一人取り残さない共生社会の実現に向けて、国の動向や各機関の役割、事例等について学ぶ機会となりました。参加者からは「障害の定義が医学的なものから社会的なものに移行しているというお話は、意識改革という意味からもとても役に立ちました。」「障害をもつ方々の学校教育卒業後の生涯学習の在り方として、公民館がその担い手となれることがよくわかりました。」「障害者の生涯学習という視点による取組の見直しが必要だと強く感じました。」等の感想が寄せられました。

共生社会の実現は、未来の見通しが困難な現代において、誰もが安心して暮らせる社会を築くための重要なキーワードとなっています。学校では日々、様々な教育活動を通じて、子供たちに多様性の理解や他者を尊重する態度を育むために力を注いでいます。同時に、地域では子供たちが様々な年齢や背景をもつ方々と交流する中で、地域社会や多様な文化に触れる機会を得ています。コミュニティ・スクールの仕組みを有効活用し、学校と地域が共通の目標に向けて協力することで、子供たちが共生社会の実現に向けて主体的に生きていく力を身に付けることができるよう、西部教育事務所では継続的な取組を進めていきますので、今後も積極的な参加をお願いします。